

凍霜害に対する農作物の技術対策について

令和4年4月18日
農業技術課

1 果 樹

(1) 全 般

- ・凍霜害の発生状況は、品目・品種・生育ステージにより異なるので、園地ごとに被害発生状況をよく確認し対応する。
- ・着果量が不足する場合は樹勢が旺盛となるため着果管理に合わせて新梢管理も徹底する。

(2) りんご

- ・一部地域では「王林」「シナノゴールド」「秋映」等の中心花の被害が確認されているが、被害園では被害状況を確認し、可能な限り人工受粉を行って結実確保を図る。

(3) な し

- ・被害状況を確認し、可能な限り人工受粉を行って結実確保を図る。
- ・花の子房部分を解体し、胚珠が褐変していないか確認し、残したい番花（2～4番花）の被害状況を確認する。

ア 人工受粉

- ・天候不順ではあるが、気温15℃以上となったタイミングで人工受粉を複数回実施するなど結実確保につとめる。
- ・雌ずいに障害が発生している可能性があるため、十分な量の花粉を用いて、番果にこだわらず、できるだけ多くの花に人工受粉を行う。場合によっては遅れ花にも受粉する。

(4) もも・核果類

ア 人工受粉

- ・開花中の地域であれば、人工受粉を複数回実施するなど結実確保を図る。
- ・人工受粉を行う品種では、十分な花粉量を確保し、丁寧にかつ繰り返し受粉する。
- ・被害を受けた園は、着果位置にこだわらず、結実確保を優先する。
- ・花粉が不足する場合は、交互受粉を励行する。

イ 摘果作業

- ・摘果作業は、幼果が肥大し結実を確認してから実施する。すもも・ネクタリンなどはさび果に注意する。

2 野 菜

(1) アスパラガス

- ・被害を受けた若茎は貯蔵養分の消費を防ぐため早めに地際から刈り取り、新芽の発生を促す。
- ・被害が軽度の場合、以後の伸長が悪く商品性の劣る若茎もあるので、経過をみながら刈り取り処分を行う。